

出産前後の母親の心理

産科分婁部 発表者 宮脇真弓

池野位子・松本あつ子・山口文子・中嶋まさ子
原田まさみ・原田由紀・菅めぐみ・久保田裕子
桜井恵理子・伊藤寿美・木南園子・中嶋薫
野口千里・日堂礼子

I はじめに

近年、核家族化の進行、兄弟の減少、有職婦人の増加など、社会情勢の変化に伴い、母子のきずなについて、問題提起がされるようになってきた。胎児期および新生児期の母子のかかわり方は、その児の成長・発達に大きな影響をおよぼすといわれている。母子関係の出発点にかかわる私達は、こうした社会情勢をふまえ、母親の心理をとらえた上で援助をしてゆかなければならない。

そこで、今回文章完成法を用いて、母親の妊娠・出産、児に対する心理を調査分析し、その傾向をみてみたので、ここに報告する。

II 研究期間

昭和60年12月～昭和61年3月

III 対象および研究方法

1. 対象（回収率100%）

妊娠36週以後の妊婦 93名

初産婦 36名	核家族 52名
経産婦 57名	複合家族 41名

産後入院中の褥婦 111名（妊娠中回答70名を含む）

初産婦 42名	核家族 61名
経産婦 69名	複合家族 50名

2. 研究方法（資料1）

妊婦に対しては、外来で妊婦用文章完成法記入用紙を、褥婦に対しては、産後2日目に褥婦用文章完成法記入用紙を渡し、実施してもらう。

文章完成法の項目では、胎児と父親との関係、夫婦関係、母親自身の養育歴など、広範囲にわたって調査しているが、ここでは、母親の妊娠・出産、児に対する気持ちが最もわかるとと思われる、以下の項目をとりあげて検討した。

妊婦用文章完成法より

- 2 初めて妊娠に気づいたとき、私は
- 4 おなかが大きくなってくると
- 6 出産
- 12 妊娠して私の変わったことは

- 17 おなかの赤ちゃんが動く
 30 私はおなかの赤ちゃんに対して
 褥婦用文章完成法より

- 2 初めて子供を見たとき、私は
 6 出産

結果の評価については、各項目とも、ポジティブなものを(+), ネガティブなものを(-)とし、どちらとも判断困難なものを(±)とした。無回答については、回答拒否とみなし(-)とした。

<資料1>①

文章完成法とは、臨床心理検査の一技法で、最初は「言語連想」の一方式として始められたものである。未完成の文章を刺激として提示し、それに対して連想される自由な内容を続けて、文章を完成することにより、対象の意識しているもの、あるいは、心理的に影響をもつものであるが、ふだんは意識されないものなどが表現される。

これは、集団での実施ができるので、目的に応じて多くの種類のものが作成されている。

今回の研究では、妊娠10ヶ月の妊婦に対し、川井尚氏の作成した、妊婦用文章完成法と、褥婦に対しては、これを一部変更して利用した。

<資料1>② 妊娠10ヶ月の皆様へ

出産を間近に控えていろいろな心配がおりかと思ひます。私たちは妊娠さんの今の気持ちを知り、今後の指導に役立てたいと思ひておひります。それぞれの書きかけの言葉から連想されるあなたの今の気持ちを、自由に続けて書いて下さい。全項目について短くても結構ですのでご記入よろしくおひります。

初産 経産 家族構成 _____ 職業 _____

- 1 私は子供の頃 _____
 2 初めて妊娠に気づいたとき、私は _____
 3 私は母と _____
 4 おなかが大きくなると _____
 5 夫と私は _____
 6 出産 _____
 7 母に甘えたこと _____
 8 もし私が男だったら _____
 9 私と兄弟は _____
 10 赤ちゃんが生まれると聞いて夫は _____
 11 私は子供と _____
 12 妊娠して私の変わったことは _____
 13 子供を育てることは _____
 14 私が泣きたくなるのは _____

- 15 父は _____
- 16 心配なことは _____
- 17 おなかの赤ちゃんが動くとき _____
- 18 夫に対して私は _____
- 19 私は女として _____
- 20 父と母は _____
- 21 私は将来 _____
- 22 乳房 _____
- 23 夫はおなかの赤ちゃんに対して _____
- 24 困り果てた時、私は _____
- 25 私の子供はきっと _____
- 26 私は父と _____
- 27 私が妊娠して夫の変わったことは _____
- 28 私のからだは _____
- 29 父に甘えたこと _____
- 30 私はおなかの赤ちゃんに対して _____
- 31 仕事 _____
- 32 母は _____
- 33 性 _____
- 34 子供が泣きやまないと _____
- 35 私は母親として _____
- 36 夫と子供は _____
- 37 親友は _____
- 38 夫の親と私は _____

ご協力ありがとうございました。

信州大学病院 産科分娩部

<資料1>③ お産を終えた皆様へ

御出産おめでとうございます。母子共に健やかな成長を心からお祈りいたします。私たちはお母さん達の今の気持ちを知り、今後の指導に役立てたいと思っております。それぞれの書きかけの言葉から連想されるあなたの今の気持ちを、自由に続けて書いて下さい。全項目について短くても結構ですのでご記入よろしくお願ひします。

初産 経産 家族構成 _____ 職業 _____

- 1 私は子供の頃 _____
- 2 初めて子供を見たとき、私は _____
- 3 私は母と _____
- 4 子供が成長したら _____
- 5 夫と私は _____
- 6 出産 _____

- 7 母に甘えたこと _____
- 8 もし私が男だったら _____
- 9 私と兄弟は _____
- 10 赤ちゃんが生まれたと聞いて夫は _____
- 11 私は子供と _____
- 12 出産して私の変わったことは _____
- 13 子供を育てることは _____
- 14 私が泣きたくなるのは _____
- 15 父は _____
- 16 心配なことは _____
- 17 子供が動くとき _____
- 18 夫に対して私は _____
- 19 私は女として _____
- 20 父と母は _____
- 21 私は将来 _____
- 22 乳房 _____
- 23 初めて子供を見て夫は _____
- 24 困り果てた時、私は _____
- 25 私の子供はきっと _____
- 26 私は父と _____
- 27 私が出産して夫の変わったことは _____
- 28 私のからだは _____
- 29 父に甘えたこと _____
- 30 私は子供に対して _____
- 31 仕事 _____
- 32 母は _____
- 33 性 _____
- 34 子供が泣きやまないと _____
- 35 私は母親として _____
- 36 夫と子供は _____
- 37 親友は _____
- 38 夫の親と私は _____

ご協力ありがとうございました。

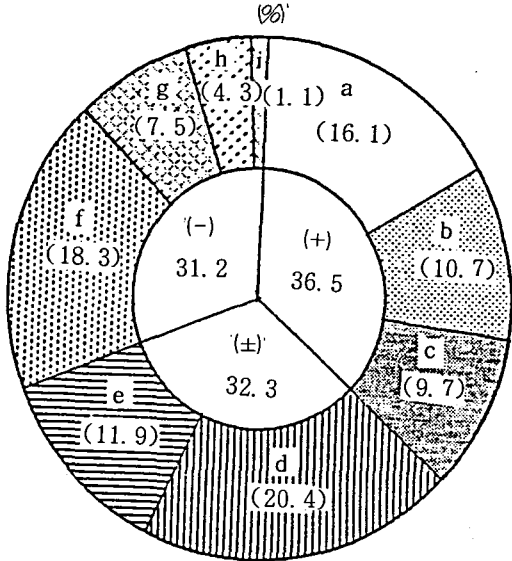
信州大学病院 産科分娩部

IV 結果(資料2)

集計にあたり、初産婦・経産婦別、核家族・複合家族別に分類し集計したが、それについては、差のみられるところにつき、とり上げた。

1. 妊娠して私の変わったことは (図I-1・2参照)

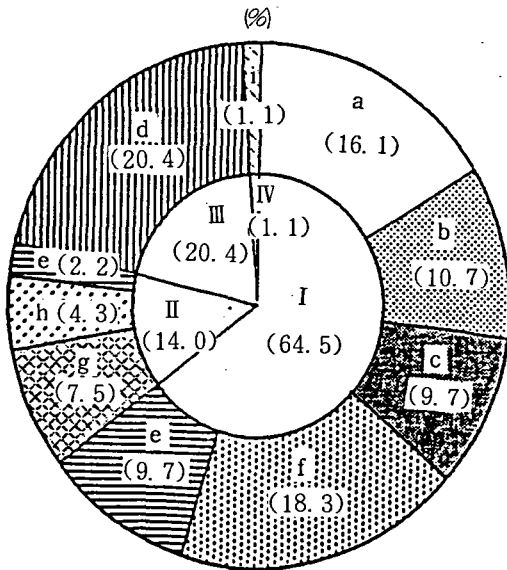
図I-1 妊娠して私の変わったことは



+ : よい方向に変わったと思っている
 - : 悪い方向に変わったと思っている

- a. 母として成長した
- b. 精神的に安定した
- c. 児に対し配慮するようになった
- d. 特に変化なし
- e. その他
- f. 精神的に不安定になった
- g. 太った
- h. 動きがにぶくなった
- i. 反応なし

図I-2 妊娠して私の変わったことは



- I. 精神的变化
 - a. 母として成長した
 - b. 精神的に安定した
 - c. 児に対して配慮する様になった
 - f. 精神的に不安定になった
- II. 身体的変化
 - g. 太った
 - h. 動きがにぶくなった
- III. 変化なし
 - d. 変化なし
- IV. 反応なし
 - i. 反応なし

図 I - 1 のように, (+)の反応は「母として成長した」16.1%, 「精神的に安定した」10.7% などで, (-)の反応は, 「精神的に不安定になった」18.3%, 「太った」7.5%, 「動きが鈍くなった」4.3%などである。(+)36.5%, (±)32.3%, (-)31.2%と大差はみられなかった。

図 I - 2 のように, 精神的・身体的変化から分類すると, 「精神的变化」が64.5%と大きく占め, 「身体的変化」は14.0%で, そのほとんどが(-)の傾向にある。

2. 初めて妊娠に気づいたとき, 私は (図 II - 1・2 参照)

図 II - 1 初めて妊娠に気づいたとき, 私は

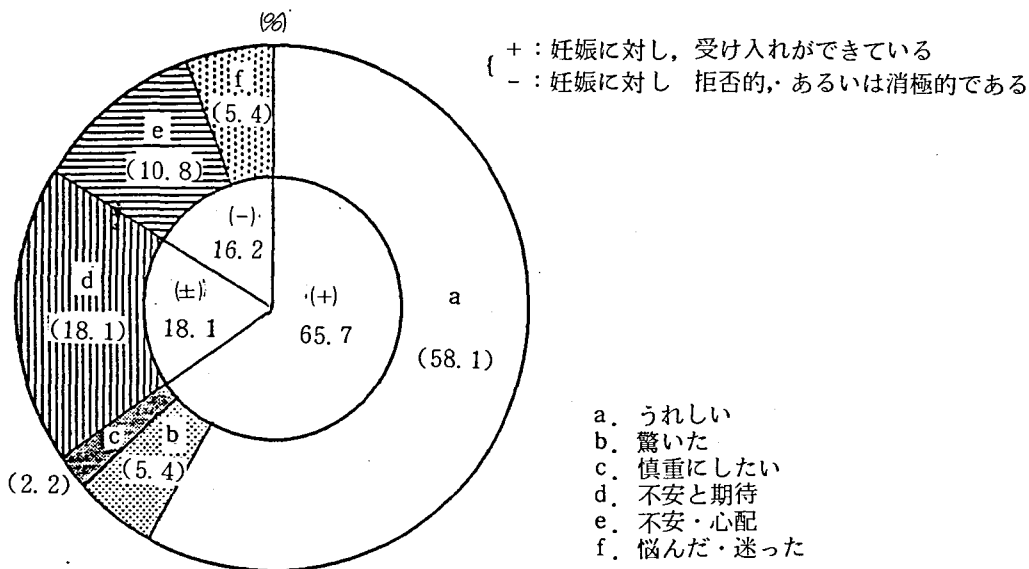
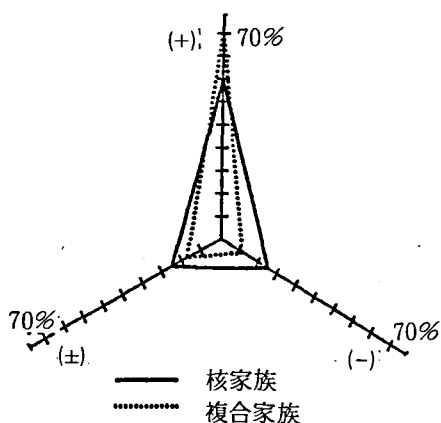


図 II - 2 初めて妊娠に気づいたとき, 私は

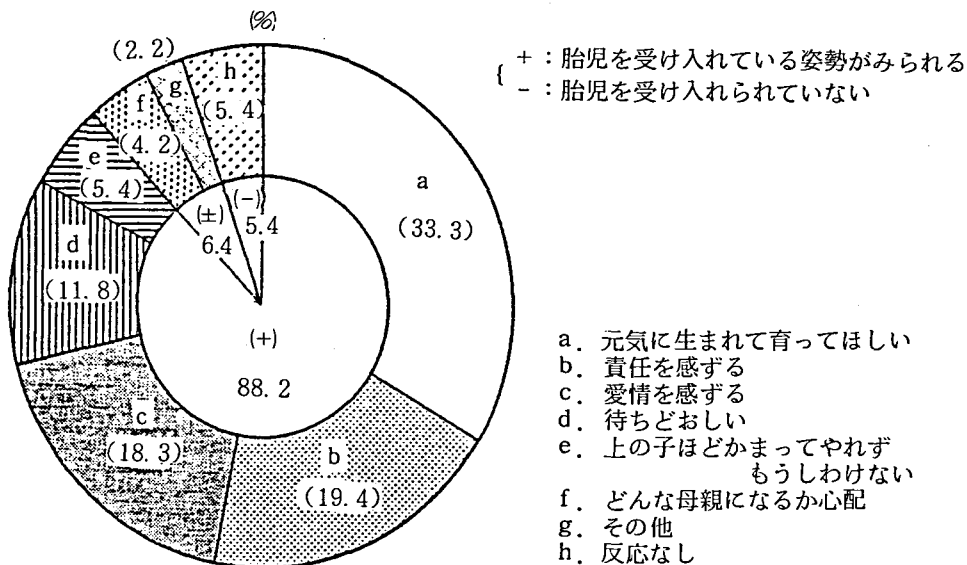


図Ⅱ-1のように、(+の反応は65.7%あり、「うれしい」が58.1%を占める。(-)の反応は16.2%で、「不安・心配」10.8%、「悩んだ・迷った」は5.4%である。

図Ⅱ-2のように、家族構成別にみると、(-)の反応は核家族に21.2%あり、複合家族より12%程多くみられる。

3. 私はおなかの赤ちゃんに対して(図Ⅲ参照)

図Ⅲ 私はおなかの赤ちゃんに対して



図Ⅲのように、(+の反応が88.2%と大部分を占め、中でも「元気に生まれて育ってほしい」が33.3%と多くみられている。次に「責任を感じる」19.4%、「愛情を感じる」18.3%と続く。5.4%の(-)の反応は無回答である。

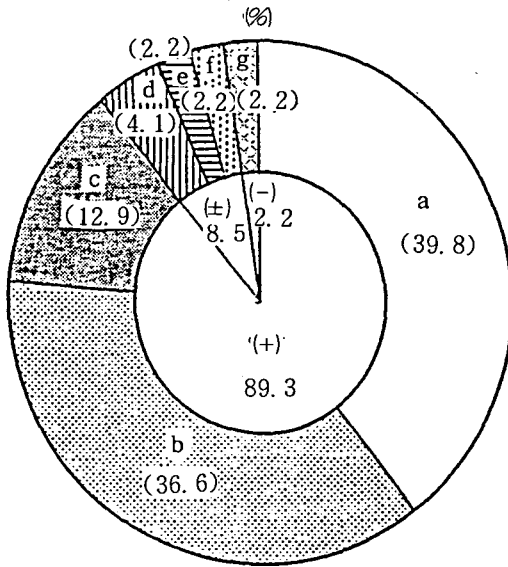
4. おなかの赤ちゃんが動く(図Ⅳ参照)

図Ⅳのように、胎動により、「赤ちゃんの存在感」が39.8%、「うれしい」36.6%など(+の反応が89.3%とほとんどである。(-)の反応は、これも無回答のものである。

5. おなかが大きくなってくると(図Ⅴ参照)

図Ⅴのように、(+46.3%、(-)37.7% あり。「喜び・誇り・期待」19.4%、「胎児の存在感」16.1%などが(+の反応で、(-)は、ほとんどが「行動が不自由」という回答である。

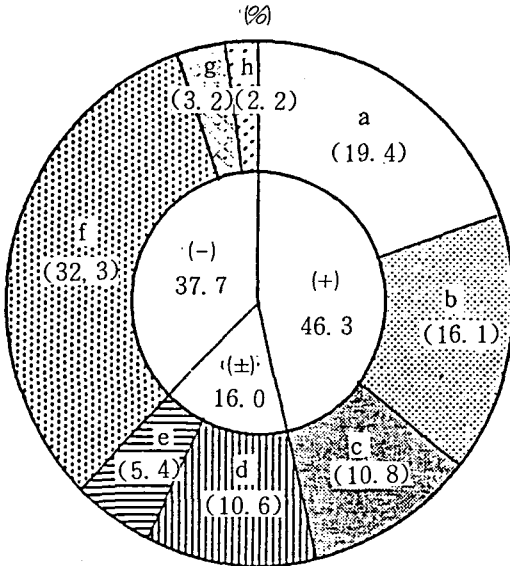
図Ⅳ おなかの赤ちゃんが動くと



{ + : 胎動に好感を抱いている
- : 胎動に嫌悪感を抱いている

- a. 赤ちゃんの存在感
- b. うれしい
- c. 母親の実感
- d. 大変
- e. こんなに動いて大丈夫?
- f. 不思議
- g. 反応なし

図Ⅴ おなかが大きくなってくると



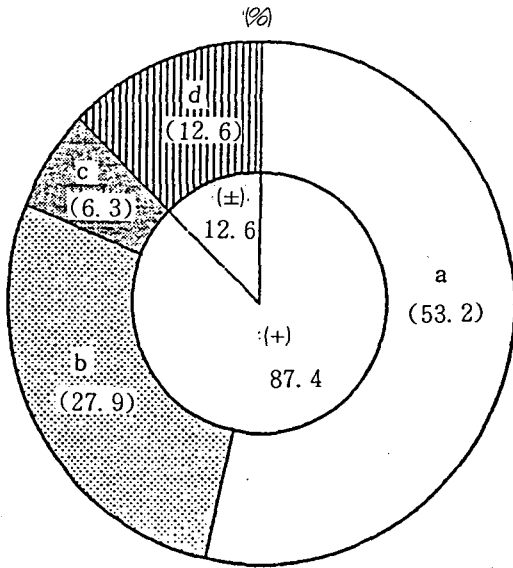
{ + : 妊娠に喜びを感じている
- : 妊娠に負担を感じ消極的である

- a. 喜び・誇り・期待
- b. 胎児の存在感
- c. 母となる実感
- d. 不安と期待
- e. その他
- f. 行動が不自由
- g. 恥ずかしい・後悔したこともある
- h. だんだん不安になる

6. 初めて子供を見たとき、私は(図Ⅵ参照)

図Ⅵのように、(+)の反応が87.4%であり、「うれしい・感動」が53.2%、「顔についての感想(かわいい, ○○に似ていてうれしい等)」27.9%などがある。児を拒否するような(-)の反応はなく、また、無回答もなかった。

図VI 初めて子供を見たとき私は

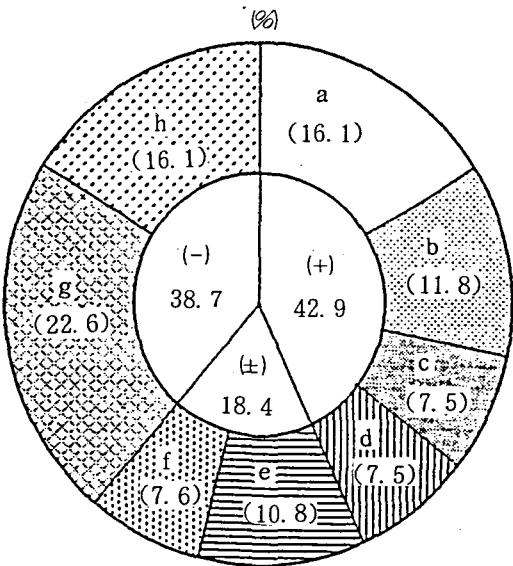


+ : 児を受け入れている
 - : 児を拒否している

- a. うれしい・感動
- b. 顔についての感想
- c. 母の実感
- d. 信じられない・実感がない

7. 出産 (図VII-1・2・3・4参照)

図VII-1 出産 (妊娠中)

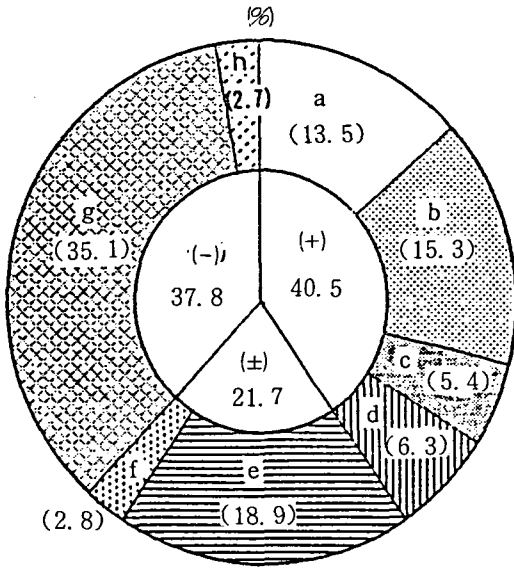


+ : 出産に対してよいイメージをもっている
 - : 出産に対して嫌なイメージをもっている

- a. 幸せ・喜び・楽しみ
- b. がんばろうと思う
- c. 安産にすませたい
- d. 元気に生まれてほしい
- e. 不安と期待
- f. その他
- g. 不安
- h. 大変なこと

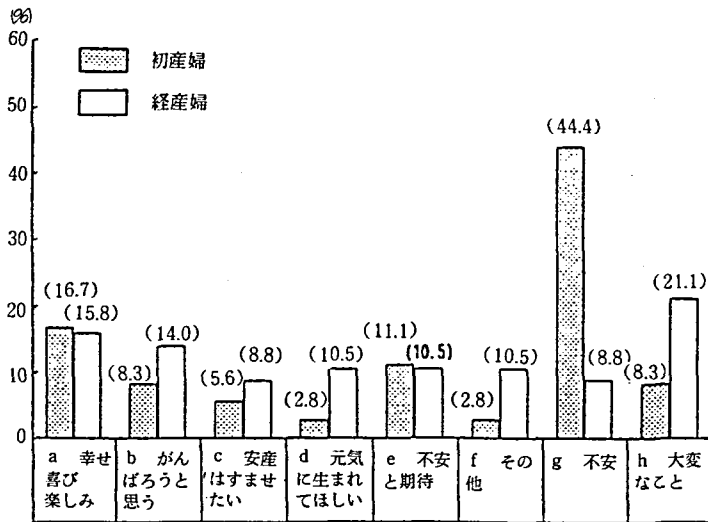
図VII-1・2のように、妊娠中は、(+)の反応が42.9%、(-)の反応は38.7%であり、産後は(+)の反応が40.5%、(-)の反応は37.8%で、産前、産後とも、(+), (±), (-) は、同傾向を示した。

図Ⅶ-2 出産（産後）



- a. 大変だったがすばらしい
- b. 喜び・感動
- c. 思ったより楽だった
- d. 母としての自覚がもてた
- e. ほっとした
- f. その他
- g. 大変だった
- h. 不安だった

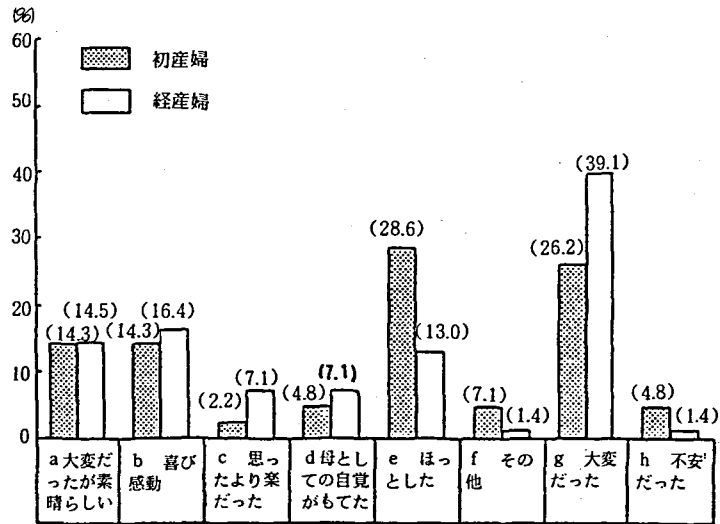
図Ⅶ-3 出産（妊娠中）



項目別では、妊娠中は、「幸せ・喜び・楽しみ」が16.1%、「がんばろうと思う」11.8%などが(+)の反応で、(-)の反応は「不安」が22.6%と多くなっている。産後は、(+)の反応は、「喜び・感動」が15.3%、「大変だったがすばらしい」13.5%などがある。(-)の反応は、「大変だった」がほとんどで35.1%であった。

図Ⅶ-3・4のように、初産婦・経産婦別では、初産婦は、産前は(-)の反応の「不安」が最も多く、44.4%であるが、産後は、(-)の反応は「大変だった」26.2%で、(±)の反応の「ほっとした」が28.6%であり、(-)の反応は減少している。経産婦では、妊娠中は、「大変なこと」が21.1%と最も多く、産後でも、「大変だった」が39.1%と、(-)の反応は多くなっている。

図Ⅶ-4 出産（産後）



V 考 察

初めて妊娠に気づいた時、うれしい、慎重にしたいなど(+)の反応が多いが、悩んだ、迷ったなど(-)の反応もあった。しかし、妊娠が経過するにつれて、ほとんどが(+)の反応となり、実際に児に面会して(-)の反応を示す人はみられなかった。これは、妊娠・出産の経過の中で、児を具体的な存在として受け入れたためと思われる。

家族構成別にみると、初めて妊娠に気づいた時の(-)の反応は、核家族に多くみられた。これは、不安を相談する機会が少ないというところに原因があるのではないかとと思われる。しかし、複合家族にあっても、妊娠して精神的に不安定になったという反応が多く、これは、妊婦をとりまく人間関係のストレスの増加によるものではないかと考える。こうしてみると、今回の調査では、家族構成による大きな差異は認められず、日頃、私たちが問題とする核家族化に対しての特殊な援助というのではなく、それぞれに対する援助が必要と思われる。

精神的・身体的変化からみると、身体的変化は(-)イメージにつながっている。妊娠・出産により身体的負担が増強していることは、おなかが大きくなってきても、出産においても、大きな割合を占めていることにより、理解できると思う。

出産については、初産婦の産前は、喜び、がんばろうと思う反面、経産婦より不安が強く、知識・情報は得られても、未知の体験に対する不安を抱いているものと思われる。産後は大変だったという気持ちもあるが、無事出産を終えたという安心感、喜び、感動などが強く表われるために、(-)の反応の減少につながったのではなからうか。経産婦は、女として幸せ、元気に生まれてほしいという気持ちの反面、出産の経験から、大変なこと、不安と考える人も多く、産後になると、(-)の反

応は増えている。これは、2・3回目の出産は、初めてより楽だといわれているが、いざ出産してみると、痛みは変わりなく、大変だった、何回やってもお産は大変だと改めて実感したというような気持ちによるものと推察される。

VI おわりに

文章完成法を用いた今回の研究だけでは、出産前後の心理がその児の成長にどのような影響をおよぼすかについての結論をだすにはほど遠い。しかし、この中から、身体的面、出産に対しては、(-)のイメージもうかがえるが、児に対するイメージは、すべて(+)であることから、児の受け入れについては、問題はなかったと考える。また、核家族・複合家族、初経産の別なく、それぞれに即した援助が必要であることが再認識された。

この結果をもとにして、母親の不安を少しでも軽減して、胎児期、新生児期からの母子のよりよいかかわりができるよう援助していきたい。

尚、この研究にあたり、御協力いただいた方々に深く感謝致します。

<参考文献>

- 1) 川井尚他：妊娠と胎児の結びつき—SCT-PKSによる妊娠期の母子関係の研究—
周産期医学Vol.13. No.12 1983
- 2) 川井尚：妊娠期の心と母子関係—妊婦用文章完成法(SCT-PKS)の反応から—
助産婦雑誌 Vol.38. 1984. No.6
- 3) 佐野勝男他：精研式文章完成法テスト解説—成人用—, 金子書店 1982
- 4) Klaus, M. H, Kennell, J. H, 竹内徹訳：母と子のきずな—母子関係の原点を探る,
医学書院, 1979
- 5) 岡部恵子：母と子のきずなの出発点—母親の自立を支えるものとしての自覚—,
助産婦雑誌 Vol.38. 1984. No.6
- 6) 小林登：赤ちゃん誕生—母と子のきずな—, 岩波書店 1984